

学校だより ~3月特別号~

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/daigonishi-s/>
E-Mail daigonishi-s@edu.city.kyoto.jp

〒601-1378 京都市伏見区醍醐川久保町1 TEL571-0221 fax571-4629

令和7年3月6日
京都市立醍醐西小学校
校長 森川 浩孝



令和6年度 第2回学校評価について

保護者の皆様にはお忙しい中、12月に実施いたしました「学校評価」のアンケートにご協力いただきありがとうございました。また、児童には日頃の学習や学校生活の様子についてふり返り、自己評価を実施いたしました。保護者の皆様からいただきました学校評価と児童の自己評価を通して、学校の日頃の取組を見直すきっかけとともに、保護者・地域の皆様と一緒に、よりよい教育のあり方を探っていきたいと考えています。今回は、90近くの回答をいただきました。



児童と保護者で同じ内容のアンケート項目<上段:児童 下段:保護者> ※左から①…そう思う ②大体そう思う ③あまり思わない ④思わない					保護者の方・地域の方へのアンケート項目				
1. 楽しく学校へ通えています。	57.2	33.6	4.6	4.6	9. 学校でほめられます。	27.3	48.1	18.2	6.4
1.お子たちは、楽しく学校へ通っていますか。	58	35.2	5.7	1.1	10.おうちでほめられます。	40.9	36.4	12.7	10
2.自分からあいさつしています。	42.8	33.6	19.1	4.5	9.ご家庭で、お子たちをほめていますか。	30.7	56.8	11.4	1.1
2.お子たちは、自分からあいさつをしていますか。	20.4	47.8	29.5	2.3	11.学校の勉強はわかりやすく楽しいです。	51.9	30.9	14.5	2.7
3.正しいことばづかいで話しています。	32.7	45.4	16.4	5.5	10.お子たちは、学校の勉強が分かりやすく楽しそうですか。	17	70.5	10.2	2.3
3.お子たちは、正しい言葉づかいで話していますか。	15.9	50	25	9.1	12.おうちを学習しやすいように整理整頓しています。	36.4	32.7	17.3	13.6
4.友だちと仲よくすごしています。	57.2	33.6	4.6	4.6	13.ご家庭の学習環境は整っていると思いますか。	15.9	60.2	20.5	3.4
4.お子たちは、友だちと仲よくすごしていますか。	37.5	55.7	5.7	1.1	13.「早ね・早起き・朝ごはん」ができます。	34.5	30.9	18.2	16.4
5.学校でのできごとを自分から家人に話しています。	40.1	29	20.9	10	14.お子たちは、「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的な生活習慣が身についていますか。	22.7	43.3	26.1	7.9
5.お子たちは、学校での様子を家で伝えていますか。	28.4	52.3	17	2.3	14.ゲームやスマートフォン・インターネット・SNSなどを使う時間やルールを守っています。	43.6	27.3	17.3	11.8
6.学校やクラスの約束を守っています。	41.8	50	7.3	0.9	16.お子たちは、ゲームやスマートフォン・インターネット・SNSなどを使う時間やルールが守られていますか。	12.5	42	36.4	9.1
6.お子たちは、学校や学級の約束を守っていますか。	29.5	58	9.1	3.4	15.行事や部活動をがんばっています。	73.6	18.2	7.3	0.9
7.こまつことをそだんできる人がいます。	60.9	23.7	8.2	7.2	17.学校の行事や部活動は、子どもたちにとって有意義なものになっていますか。	47.7	48.9	3.4	0
7.お子たちは、困つことを相談できる相手がいますか。	39.8	50	10.2	0	16.いじめや仲間はずれをしていません。	70.9	21.9	4.5	2.7
8.将来の夢をもっています。	72.8	13.6	6.4	7.2	19.いじめや仲間はずれのない学校づくりができていますか。	18.3	67	10.2	4.5
8.お子たちは、将来の夢をもっていますか。	30.7	50	17	2.3					

第1回学校評価（7月）との比較・分析

今回の分析は、前回（今年度7月）に実施しました第1回学校評価アンケートと比較し、「そう思う」「大体そう思う」にお答えいただいたものをもとに、ランキング形式でお知らせします。

【前回（今年度7月）の学校評価と比較 up 編】

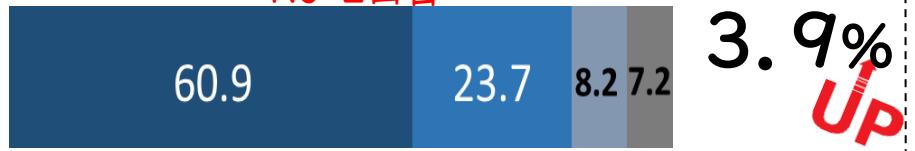
No.1

児童 7. こまつたことをそだんできる人がいます。

R6 1回目



R6 2回目

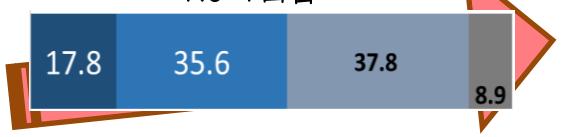


3.9%
UP

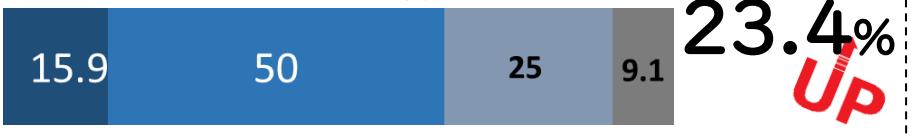
保護者

3. お子たちは、自分からあいさつをしていますか。

R6 1回目



R6 2回目



23.4%
UP

児童への設問について、「こまつたことをそだんできる人がいます。」に対して、「そう思う／大体そう思う」と回答した割合が全体の約85%を占めており、前回より3.9%増加しました。特に、「そう思う」との回答が60.9%と、前回の9.7%と比較すると約6倍を超えた結果となり、子どもたちが安心して学校生活を送ることができていることがうかがえます。

保護者の方への設問については、「お子さんは、自分からあいさつをしていますか。」に対して、前回より23.4%も上昇しました。

日常生活の中で、わたしたちはさまざまな場面で挨拶を交わします。ここで、あいさつをする意義について、考えていきたいと思います。

1. 思いやりと尊重の表現：挨拶は、相手への思いやりや尊重の気持ちを表現するための一つの手段です。相手に対して「あなたを大切に思っています」というメッセージを伝えることができます。
2. コミュニケーションの一歩：挨拶を交わすことで、相手とのコミュニケーションの扉が開かれます。挨拶から始まる会話は、信頼関係を築くための第一歩です。
3. ポジティブな雰囲気作り：明るく元気な挨拶は、周囲の雰囲気をポジティブに変える力を持っています。笑顔で挨拶することで、学校全体が明るく活気に満ちた場所になります。
4. 自己肯定感の向上：挨拶をすることで、自分自身も気持ちが良くなります。挨拶を習慣化することで、自己肯定感が高まり、自信を持って一日をスタートさせることができます。

わたしたちの学校では、引き続き挨拶の習慣を大切にしていきたいと思っています。児童の皆さんも、毎日の挨拶を通じて、思いやりと尊重の心を育んでいきましょう。保護者の皆様にも、ぜひご家庭での挨拶の大切さをお子様に伝えていただきたいと思います。

自由記述欄に頂いたご意見・ご質問

・お忙しいのに細かいところまで気にしてくださったりでいつも感謝しています。

⇒保護者の方々からの温かいお言葉に、心から感謝申し上げます。お子たちの成長と学びをサポートするために、全力を尽くしていることがこのように認められるのは、私たちにとって大変励みになります。今後も引き続き、皆様と協力しながら、より良い教育環境を提供してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



ココに注目①

メディアの使用時間が深刻です。

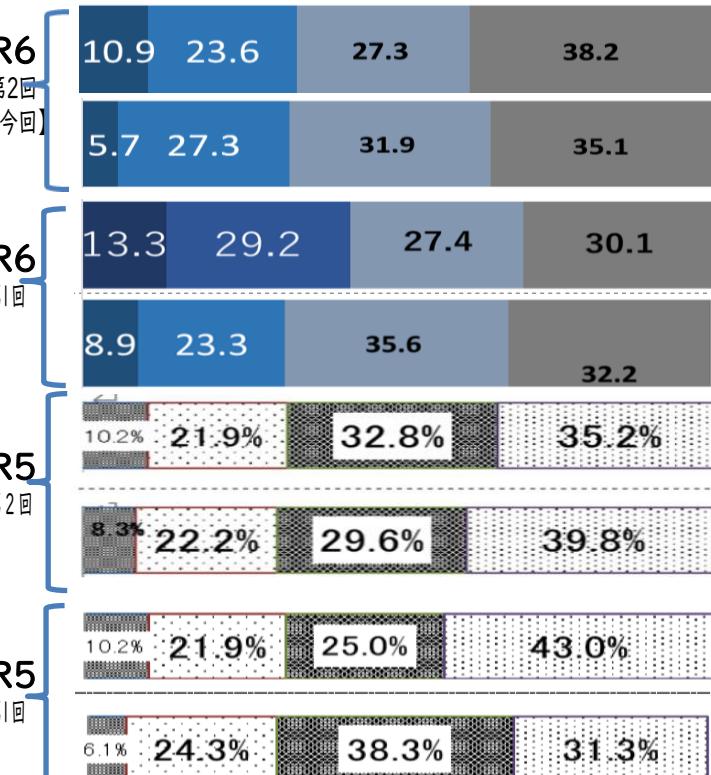
—過去4回の傾向からみえること—

設問20. ゲームやスマートフォンなどを1日に使う時間はどれくらいですか。

設問26. お子たちのゲームやスマートフォン等の1日の使用時間はどれくらいですか。

<①全く使わない ②60分未満 ③60~120分 ④120分以上>

児童（上段） 保護者（下段）：



左のグラフの通り、過去3回のアンケート結果と比較して、保護者及び児童が毎日60分以上ゲームやスマートフォンを使用している割合（回答③④）が増加しています。特に懸念すべき点は、120分以上使用している割合が4割近くに達していることです。これは、全校児童の4人に1人が長時間メディア機器を使用していることを示しています。

しかしながら、今年度も3回実施している「メディアコントロール」の取り組みでは、一番難しいチャレンジである『朝から寝るまでノーメディア』の達成者が増えていることが確認されています。このことから、メディア機器の使い方について考える『メディアコントロール』の取り組みが、子どもたちの中で一定の成果を上げていると考えられます。

これまで繰り返し伝えてきたように、子どもたちも私たち大人も、メディアには多くの危険性が潜んでいることを意識し続けることが重要です。子どもたちに対して、自分でメディア使用時間をコントロールできることが自分のためになると伝え続けていきたいと思います。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ココに注目②

読書の時間が改善傾向です！

—全く読んでいない児童が半数以上—

設問18. 家で読書している時間はどれくらいですか。

設問24. お子たちの家庭での読書時間はどれくらいですか。

<①全くしていない ②1~30分 ③30~60分 ④60分以上>

【今回の回答】

55.4 27.3 8.2 9.1

【前回の回答】

56.6 29.2 6.2 8

今回のアンケート結果から、子どもたちの家庭での読書時間にわずかに改善が見られました。前回の調査では読書を「まったくしない」と回答した子どもたちの割合が56.6%でしたが、今回の調査では55.4%に減少しました。また、60分以上読書をする子どもたちの割合が前回の8%から今回の9.1%に増加し、読書時間が長い子どもたちが増えていることが分かりました。

この結果は、読書習慣の定着が少しずつ進んでいることを示唆していますが、依然として多くの子どもたちが家庭で十分な読書時間を確保できていない現状も浮き彫りにしています。今後は、学校や家庭での読書習慣の促進が一層重要となります。

具体的な取り組みとして、学校での読書活動（読み聞かせ等）や家庭での読書タイムの設定、興味を引く本の紹介や読書イベントの実施などが挙げられます。子どもたちが読書を楽しむ環境を整えることで、読書習慣のさらなる定着が期待されます。

今後も、学校としては読書の重要性を強調し、子どもたちが自主的に本に親しむような機会を増やす努力を続けます。私たち教員も一丸となり、学校でも読書を活性化させることができるようにがんばります。子どもたちの未来をより豊かにするために、読書の習慣を一緒に育ていきましょう。